

11人が教壇に別れ

学生の指導に尽力し、研究に情熱を注いでこられた教員11人が本年度末で定年退職を迎える。
※氏名、主な担当・専門、主な役職、勤続年数

定年退職

【経済学部】
加藤 浩平教授
「ヨーロッパの経済」34年

吉江 文男教授
「生物科学」37年

【法学部】
中島 弘雅教授

【民事訴訟法】6年

【商学部】
大林 守教授

「マクロ経済学」国際交
流センター長、36年

梶田 龍三教授
「国際会計論」11年

【金融論】40年

田中 和雄教授
「経営学」21年

柳 裕治教授
「税務会計論」会計学研
究所長、43年

【文学部】
熊木 洋太教授
「環境地理学」文学部環
境地理学科長、17年

黒沢 眞里子教授

「アメリカの歴史と文
化」文学部英語英米文学
科長、23年

依願退職・ 任期満了

【経済学部】
朝倉 健男助教

【法学部】
大西 楠アア教授
【経営学部】
森本 祥一教授
【文学部】
巴山 竜来准教授
久木元 美琴教授

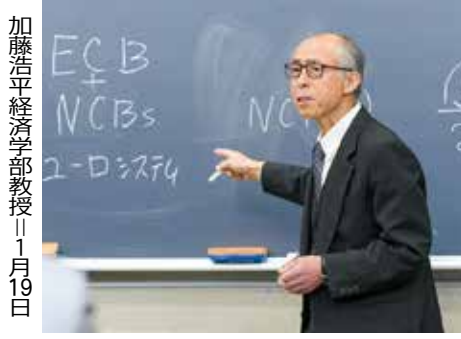
【法科大学院】
佐野 裕志教授

「民事訴訟法」法科大
学院長、17年

【経済学部】
白鳥 克弥助教
小沼 良次特任教授
松岡 郁子特任教授
【ネットワーク情報学
部】
望月 俊男准教授

【国際コミュニケーション
学部】
石川 健太助教
伊藤 英人特任教授

最終講義



加藤浩平経済学部教授11月19日



梶田龍三商学部教授11月23日



柳裕治商学部教授11月19日



熊木洋太文学部教授11月19日

ネット情報「特殊演習」 市民参加型WSで発表

地域とともに



市民ミュージアムのアイデアを発表する学生たち

ネットワーク情報学部
の望月俊男准教授と中西
紹一兼任講師が担当する
「特殊演習(ワークショップ)」
では、ワークショップ
ツプ(W.S)の企画・実
施・分析の方法などを実
践的に学んだ。今年度は
川崎市と連携し、市が整
備を進める「新たな市民
ミュージアム」をテーマ
に活動した。
3年次生8人は、新ミ
ニシアム、平林久織さんのチ
ーム

ユージアムのアイデアを
構想するため学内でWS
を開催。その内容を分析
してまとめ、3月9日に
専修大学サテライトキャ
ンパスで開かれた川崎市
主催の市民参加型WS
「ミュージアム・市民ミ
ニシアム」で発表した。
南雲健人さんのチ
ームは生田緑地の風景写真
を使ったモザイクアートな
制作に取り組んだ。ゼミ
生は夜の魅力を体感す
る展示などを提案。その
後、一般参加者によるグ
ループディスカッション
が行われ、3年次生も進
行役として参加した。
地域活性化に関心を寄
せる平林さんは「提案を
通じて川崎市に貢献で
き、達成感がある」と充
実の表情を見せた。

文・川上ゼミ SHOW 18号刊行

編集や出版について学
ぶ文学部の川上隆志ゼミ
が、年一回発行している
雑誌「SHOW」18号が
12号の力作だ。
「私たちが取り巻く環
境は大きく変わっ
た。これまでの『当
たり前』を考え直す
ことをテーマにし
た」と、編集長の阿
久津英恵さん(3年
次)。巻頭特集「ど
う生きる、無縁社会」
では、統計や独自の
アンケートで現代の
人間関係を明らかに
するとともに、学外
の専門家にインタビ
ューを行い、孤独や
孤立の問題を深掘り
した。

育友会 学生支援の寄付

育友会(小海祐資会
長)は専修大学に学生支
援のための寄付を行っ
た。2月28日、神田キャ
ンパスで贈呈式があり、
の経済的支援、学生スポ
ーツ活動支援募金、食料
支援プロジェクトや応援ラ
ンチへの補助
機やいす、体
育施設の物品
など合計30
70万円。
小海会長は
「学生の学業
やスポーツな



佐々木学長(左)に小海会長
から目録が手渡された

小海会長が佐々木重人学
長に目録を手渡した。
寄付の内容は、学生へ
の経済的支援、学生スポ
ーツ活動支援募金、食料
支援プロジェクトや応援ラ
ンチへの補助
機やいす、体
育施設の物品
など合計30
70万円。
小海会長は
「学生の学業
やスポーツな

どの支援に幅広く活用
したご助力に感謝してい
る。いただいた寄付に
ついて、学内で有効に活
用していく」と感謝を述
べた。
本学長は「学生目線に立
てた。」

法・谷口教授が 海外研究員に 相馬学術奨励基金

若手研究者の海外派遣
などを行う相馬学術奨励
基金の2024年度海外
研究員に、法学部の谷口
智紀教授(平24院法博)
が選ばれた。
谷口教授は租税法が専
門。派遣先は米国のワシ
ントン大学ロースクール
で、期間は4月1日から
25年3月31日まで。研究
題目は「知的財産権課税
に関する日米比較法研究
―知的財産権の評価の問
題を中心に―」。



谷口教授は租税法が専
門。派遣先は米国のワシ
ントン大学ロースクール
で、期間は4月1日から
25年3月31日まで。研究
題目は「知的財産権課税
に関する日米比較法研究
―知的財産権の評価の問
題を中心に―」。

「当たり前」のアップデートを

歌舞伎の名女形坂東
玉三郎氏が、将来女形
が無くなるかもしれないと述べたという。
江戸時代から続く伝統芸能の第一人者はなぜ
そのようなことを考えたのだろうか。そこには、
「男らしさ・女らしさ」をめぐる昨今の社会
通念の変容があった。
たとえば、筆者の小学生時代(昭和40年代)
は、男の子は黒、女の子は赤いランドセルが当
たり前で、赤いランドセルの男の子や黒いラ
ンドセルの女の子はあり得なかった。もしそう
な子がいたら、変なおかしな子としていじめ
の対象になりかねなかった。赤は女らしい色、黒
は男らしい色で、男女はそれぞれそうした「ら
しい」色を身につけるのが当たり前とされてい
た。
しかし現在は、男はこうあるべき、女はこう
あるべきという社会通念が崩れ、男女共に性別
に囚われず好きに生きるべきという考え方が主
流になりつつあるようだ。こうした社会通念の
変容は多岐にわたり、それは人間関係の領域に
も及んでいる。
教師と学生、上司と部下、友人、同僚などの
関係性において、かつては当たり前とされ受け
入れられていたことが、誰かを傷付けたり不快
にさせる、改善すべき問題とされるようになって
きている。人間関係におけるかつての「当
たり前」は、今や「非常識」になりかねないので
ある。「自分にとっての当たり前」が「現在の
当たり前」にマッチしているか、時々立ち止ま
り省みることを心がけたい。
(キャンパス・ハラスメント対策室員 杉本肇美)



活動を進めてください。
また、就職支援システ
ム「Sine」から、本
学の学生を採用したいと
強く考えている企業の求
人情報を検索することが
できますので、ぜひ有効
活用してください。

就職だより

〈新3年次生へ〉インタ
ーシップや就職活動に
関するガイダンスを3月
28日(木)に実施しま
す。企業の採用活動は早
期化傾向にあります。ス
タートに出遅れないため
に参加必須のガイダンス
となります。詳細は、就職
支援システム「Sine
t」にてお知らせします
ので確認してください。
〈新4年次生へ〉就職活
動も本番を迎え、会社説
明会や選考試験などで慌
ただしい時期かと思いま
す。スケジュール管理は
もちろんですが、体調管
理にも十分注意して就職
活動を進めてください。

校友会情報

本学出身の会計士・税
理士の会である専修大学
会計人会(榎本恵一会
長)では、2023年度
税理士試験に合格した
卒業生へお祝い
(一部科目合格も含む)

訃報

内田弘氏(うちだ・ひろし)
名誉教授・元
経済学部教授
2月2日、
84歳で死去。1975年から
2009年まで在職。専門は
経済倫理学。

校友新社長

鎌田慶彦氏(昭和58商)木
徳神糧(株)代表取締役社長
執行役員に3月28日付で
就任。本社(東京都。米
穀・飼料・食品等の仕
入、加工、販売。